

「維新独裁」暴挙重ねる

維新委員だけで法定協開催

矛盾と破綻 追い詰められ

橋下・維新の会は、大阪市を廃止・解体する「大阪都」構想の設計図を議論する大阪府・大阪市特別区設置協議会(法定協)を単独で開催し、今月中にも特別区設置の協定書作成を狙うなど暴走を加速しています。日本共産党大阪府常任委員会は4日、声明を発表(6面に全文を掲載)、地方自治と民主主義を踏みにじる橋下・維新の会の暴挙を打ち破る世論を強め、「大阪都ストップ、維新政治ノ」の共同を広げようと呼び掛けています。

維新委員以外をすべて排除

3日午前10時から開かれた第14回法定協は、橋下徹大阪市長と松井一郎知事、維新の会府議の11人だけの出席という異常な状態で開かれました。大阪市を5つの特別区に分割する区割り案などを次々と決め、毎週1回法定協を開いて7月末までに特別区設置の協定書をまとめるスケジュールも確認しました。

公明委員を直前に差し替え

た区割り案絞り込みが、維新の会以外の反対で否決されて以降、公明・自民・民主・共産4会派の開催要求も無視して開かれてきませんでした。

維新の会は第14回法定協が開かれる1時間前に府議会の議会運営委員会を開き公明委員2人を維新に差し替え、法定協開催に必要な法定人数(2分の1以上)を確保。推薦されたいない維新市議3人も「参考人」として参加して意見表明するなど、暴挙を重ねています。

4会派の開催要求を無視し

法定協は橋下氏と松井氏、府議・大阪市議の計20人で構成。1月の第13回会合で橋下氏が提案し

橋下・維新の会は府議会の議会運営委員会(6月27日)で「大阪都」構想に反対する自民、民主の委員2人を「規約違反」と決め付けて維新に差し替え。大阪市議会は2日の運営委員会で、府議会の異常事態に照らし、法定協が正常化する

までは市議会卒の委員(8人)を出さないことを、維新の会以外の賛成多数で決めました。

「絶対納期」との号令を出して

この日の法定協で橋下氏は、「大阪都」の移行時期を自ら一貫して主張してきた「2015年4

月」から「2017年4月」へ2年先送りすることを提案。終了後、記者団に「2015年4月に住民投票が成立すれば『大阪都』移行は確定する。政治家としての役割はそれまでだ」など話をすり替えました。

でたらめぶりが浮き彫りに

市民のための仕事は二の次

同日の定例会見で橋下氏は、「都」構想の財政効果が分かりにくいとの記者団の質問に対し、「財政効果はあまり意味がない。(各特別区が破

橋下氏は法定協再開後、市の幹部職員に「協定書作成に全力を尽くせ」と指示。法定協で協定書をまとめる7月20日の仕事は二の次、三の次というありさまです。

地方自治・民主主義への挑戦

維新独裁許さぬ共同を

共産党府委が声明

日本共産党大阪府常任委員会の声明「大阪の地方自治と民主主義をかき、『大阪都ストップ』では、橋

合意を尊重すべき大阪の大都市制度のあり方を、乱暴・姑息(ごしやく)なやり方で押し付けるものを表明しています。



橋下氏ら維新委員だけで開催を強行した第14回法定協＝3日、大阪市議会特別委員会室